会議の概要

令和７年度　第２回
おおたま学園コミュニティ・スクール委員会

兼　　○　玉井幼稚園学校運営協議会　　○　玉井小学校学校運営協議会

日　時：令和７年６月２０日（金）１６：２０～１７：５０
場　所：玉井小学校　家庭科室・理科室

（ 進行 ： 玉井小学校教頭　佐藤　史浩 ）

１　開会のことば　　（おおたま学園コミュニティ・スクール委員会副会長　吉田　　都 ）

皆さん、こんにちは。暑い中お集まりいただきましてありがとうございます。また、先生方には、オープンスクールの準備をしていただきまして本当にありがとうございました。貴重な体験をさせていただきました。また、場所を変えてのこの会になりますが、どうぞよろしくお願いします。

これより、令和７年度玉井小学校・玉井幼稚園学校運営協議会（第２回コミュニティ・スクール委員会＜以降ＣＳ委員会と略記＞）を始めたいと思います。よろしくお願いいたします。

２　教育長あいさつ　　（ 大玉村教育委員会教育長　　渡辺　敏弘 ）

改めまして皆さん、こんにちは。今日は村議会があり、遅くなってしまったことをお詫び申し上げます。

本日は、おおたま学園のオープンスクール、引き続きこれからの第２回ＣＳ委員会（玉井幼・玉井小学校運営協議会）になりますが、お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。

玉井小学校の教職員の皆さまにはこれまでの準備や本日の授業提供等ありがとうございました。そして、幼稚園、小学校の先生方にはこの後の熟議にも参加いただきますこと、一部時間外になってしまうところもあり大変申し訳なく思いますが、本村が目指している“地域と共に歩む学校・幼稚園づくり”を進めていくために「地域の皆さまの思いや考えを知る機会」、「幼稚園や学校の実情を地域の方々に分かっていただいたり、感じていただいたりする貴重な機会」と捉えご協力いただければと思います。

今日の協議題を「地域の力で子どもの安全・安心を守る」と設定していただいております。先程も申しましたが、このテーマは玉井幼稚園、玉井小学校だけでなく村内共通の大事なテーマです。この後の熟議でも実りある話し合いが行われますよう、皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

３　おおたま学園ＣＳ委員会会長あいさつ　　（ おおたま学園ＣＳ委員会会長　矢吹　吉信 ）

皆さん、改めましてこんにちは。本日は暑い中お集まりいただきまして本当にありがとうございます。そして、玉井小学校の先生方、今日までの準備お疲れさまでした。特に授業者の先生方、大変お疲れさまでした。

私は、五十嵐先生の授業を拝見させていただきました。５年生とは今週の１８日（水）にご飯の食べ比べ等の授業をしたのですが、本日も米作りについての授業ということで参観しました。

その後分科会にも参加させていただきました。分科会は難しいと思い込んでいたのですが、おおたま学園の先生方が建設的な意見を活発に出し合っている姿を見ることができました。授業実践の反省だけでなく、今日の授業をどう次に生かすか、子どもたちにどんなふうに教えていったらいいか等について協議されていました。玉井小の子どもたちはとても恵まれているなと感じると共に、多忙な中でも熱心に実践研究する先生方の姿に尊敬の念でいっぱいになりました。

課題等いろいろあるとは思うのですが、先生方の応援団としてＣＳ委員がおりますので、何かありましたら、まずはＣＳ委員のメンバーにご相談ください。（こんな授業をしたい、こんな人に授業に参加して欲しい等々）

それがＣＳ委員の役割だと思っています。学校の応援団、子どもの応援団であるＣＳ委員ですが、オープンスクールに参加すると、「私たちも頑張らなくてはいけないな」と感じました。

今日は限られた時間ではありますが、玉井幼稚園、玉井小学校に特化したテーマ「地域の力で子どもの安全・安心を守る」について協議いただきます。今の社会いろいろなことがあり、事件や事故も発生しています。今回の熟議を通して、いい方向性を見つけていければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。。

４　玉井小学校・幼稚園出席者自己紹介

本日参加した玉井幼・小の教職員が自己紹介を行う。

５　検討方法・課題の確認

（１）協議の進め方について　（ 玉井小学校教頭　佐藤　史浩 ）

①　テーマについて

学校・園、家庭、地域が協力して玉井の子どもたちを育むという視点を基に熟議する。

地域の力で子どもの安全・安心を守る（自然災害・交通事故・不審者等）

②　テーマについての協議

ア　テーマについて考えたことや思ったことを付箋に書き込む。

○ 子どもに身に付けさせたい力について話し合う。

○ そのために（その力を高めるために）、学校、家庭、地域でできることを考える。

黄付箋 … 学校園からアプローチできること

赤付箋 … 家庭からアプローチできること

青付箋 … 地域からアプローチできること

イ　グループ全体で協議

ウ　「学校園ができること」、「家庭ができること」、「地域ができること」をまとめる。

③　グループで協議したことの共有化

（２）玉井小学校・玉井幼稚園の教育活動並びに本日のテーマについて

①　校長／園長より　　（ 玉井幼稚園長・玉井小学校長　五十嵐　洋之 ）

本日はお忙しい中玉井幼稚園・玉井小学校校運営協議会にお越しいただきありがとうございます。また、日頃より幼稚園、小学校の教育活動にご支援を賜り感謝申し上げます。

玉井幼・玉井小の教育目標は、共に「自分やふるさとに誇りをもち、夢や希望に向かう子ども」であります。今年度も地域の豊かな教育資源を効果的に活用しながら、また、子どもたち一人一人のよさを認め、賞賛し、自己肯定感を高め、前向きな意欲を引き出しながら教育活動を進めております。

そういった教育を進める土台となるのが、本日の協議のテーマである「地域の力で子どもの安全・安心を守ること」で、本校でも最重要課題として取り組んでいるところです。

しかしながら、昨今の社会情勢の不安定化に伴い、子どもたちの安全・安心が脅かされる事案が多発しています。例えば交通事故が挙げられます。昨年度県内で交通事故に遭った人を年代別にみると、最も多いのが８０歳代で４６人です。次いで７歳（小学校の低学年）で３４人となっており、下校中の事故が最も多くなっています。５月には大阪、埼玉、福岡で立て続けに登下校中の児童の列に車が突っ込む事案も発生しています。

次に、不審者による声かけも年々増加傾向にあります。県内でも年１０件程度発生しているようです。通学路における声かけが８割を占めており、今年度に入って東京都の小学校で（校舎内に）不審者が侵入したという事案もございました。

また、年々地震を始め大雨や台風、落雷等の自然災害の被害も大きくなってきております。現在も異常気象による熱中症対策は学校の重要課題です。学校では、災害や事故防止のための日常的な指導を実施し、事故を回避する力や正しい知識を身に付けられるよう指導しているところです。しかしながら、事件や事故、災害等の要因はますます複雑化し、その指導内容は多岐にわたり、学校だけの指導では子どもたちの安全・安心を守ることは難しい面も見えてきました。

そこで、今日の協議では、「地域の力で子どもの安全・安心を守る」をテーマとして、学校・家庭・地域それぞれの立場から様々な視点で話し合っていただき、学校の具体的方策のヒントにしていきたいと思っています。これから担当より子どもの意識調査について説明させていただきますが、それを話し合いの手がかりにしながら、有意義な熟議が進められればと思っておりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

②　安全に関するアンケート集計結果について（対象：小４～６年）　　（ 玉井小教頭 ）

＜要項ｐｐ．９－１３参照＞

○「学校生活で身の危険を感じたことがない」→５８．６％
○「家庭生活で危険を感じたことがない」→５４．３％
○　家庭や地域で危険なことは、交通事故（歩行時、自転車に乗車時）等
○「自分の命を守るため日頃から気をつけている 」→６２．９％（交通事故、不審者）
○　災害時の避難場所を知っている→５７．１％
○「自分の地域で危険なところはない」→８７．１％
○「大玉村に住んでいて、安全で安心できると思うこと」
→ 地域の人たちがやさしい。地域の人が守ってくれている。交通ルールを守る車が多い。
　地域には不審者などいない。自然災害が起きない。

６　グループ別協議　※　各グループごとに進行

７　グループ別協議内容の共有（グループ別で熟議したことの発表）

（進　行）それでは各班で話し合われたことの共有化を図りたいと思いますので、１班から発表をお願いします。

１　班

ア　学校からアプローチできること

・ 学校では「自分の命は自分で守る」という指導を行っているので、それを子どもたち一人一人が自分事として考えられるようにする。様々な場面で協力し合うことが大事。今まで行ってきた行事を通して、子どもたちに身に付けさせていくような機会をつくる。

イ　家庭からアプローチできること

・ 防災や交通事故防止等の話題について話し合っているということが一番大事

・ 情報はたくさんあるので、それを家族で共有し分かりやすくすること

・ 村から配付されているハザードマップを目につく所に掲示する　→ 子どもの力が育まれる

ウ　地域からアプローチできること

・ ある地域では、子どもたちの登下校の時間にあわせて地域の方が子どもたちの様子を見守っている。（地域の方と子どもがお互いの顔を覚えコミュニケーションをとるよう努力）

互いを知ることで「見守る」、「見守られている」という安心感が育つ。今後も継続されていくとよい。

－４－

２　班

「自分を守る力」、「危険を予測する力」を身に付けさせるために

ア　学校からアプローチできること

・ 交通教室等で子どもが体験する活動（防災キャンプ、ロールプレイング等）を取り入れていく。子どもが自分で考える力がつく。（危機管理能力）

イ　家庭からアプローチできること

・ 家族で話し合っておくことが大事（いろんなルール、地震が起きたときの避難所、情報〈どこが危ないか等〉の共有）

ウ　地域からアプローチできること

・ ヘルメットをかぶらないで自転車に乗っている子をよく見かける。「知らない子に声をかけていいか迷う」という声があるが、遠慮しないでどんどん声をかけていただきたい。地域全体で子どもたちの安全を見守ることが大事である。

・ 学校に匿名の電話（お叱りの内容）がよく来るということ。それよりも、地域の方の意識と行動が、「皆で子どもたちを見守っていこう」という方向に向いていくといい。

３　班

子どもたちを脅かすもの＝３つのこと（自然災害・交通事故・不審者）以外には、ネットでの様々な事件、熊の被害、熱中症

身に付けさせたい力 ＝ 自分の身は自分で守ること、想像力、知識、危機管理能力

ア　学校からアプローチできること

・ これまでのように訓練や指導を継続する。

イ　家庭からアプローチできること

・ 地域を知ること、人を知ること → 核家族化が進んでいる。各家庭で地域活動に積極的に参加して人とのつながりをもつ（深める）ことが大事。トラブルがあったときに力を発揮する。

・ 家庭でヘルメット、熊鈴等を準備すること

ウ　地域からアプローチできること

・ 子どもを見かけたら声をかける。（あいさつ等）

・ 熊対策、熱中症対策として、中学生にも通学バスを出してもらえるといい。（上の学年は自分で何とかできると考えがち）

４　班

身に付けさせたい力 ＝ 自分の身は自分で守ること（自分事として行動すること）、危険な場所、避難場所を知っておくこと

ア　学校からアプローチできること

・ 交通ルールの確認（ヘルメットの着用、自転車も自動車と同じ車両で重大な事故につながることがあること）

・ ニュースを見ない子が多い。（事故等の）情報をタイムリーに発信する必要がある。

・ 大人が実体験を伝えること。ただダメと言うのではなくて、なぜそうなのか理由をきちんと説明してあげると、子どもたちはより真剣に聞いてくれる。

イ　家庭からアプローチできること
・ 避難場所や一人になった時の行動を確認する。
・ 出かける前の一言
・ 普段から自分のことは自分でやるという自立心を育てる。

ウ　地域からアプローチできること
・ ヘルメットをかぶっていない子が見られるということなので、声かけ、ジェスチャー等で伝える。
・ 地域での避難訓練の実施と充実
・ 近隣の家の人と親しくしておくことは、子どもたちにとっても地域にとってもいいこと
→ つながりが強くなる（いざという時に役立つ）

5　班

大事なこと ＝ 子どもが困った時にそれを発信できるようにすること。そのためには、いろんなことを知る必要がある。

○　学校・家庭・地域からアプローチできること
・ 自然や地域のよさ・怖さを知る。困った時にそれを発信できるようにする。（何がよくて何が悪いのか）
・ 助けを求めてよい人（見守り隊、１１０番の家の場所等）を知ること
・ 危険箇所を確認する様々な機会を逃さず生かし、知ることが大事
例：家の人と危険な場所を確認しに行ってみる。学校で避難訓練をする。地域の子供会等で学ぶ。
・ 「ゾーン３０」の所をスピードを出して走っている車がおり、危険であり事故につながる。私たち大人が手本になる必要がある。

6　班

○　学校・家庭・地域からアプローチできること
・ 従来の避難訓練や交通教室を継続する。交通事故については、子どもが実際に事故に遭いそうになった事例等について子どもたちの目線で伝える。
・ 困った時には地域の方々に伝えられるよう環境を整えておく。そのためには、子どもたちが大人の顔が分かるようになっていると効果的なので、大玉村らしく大人と子どもが関わる機会を増やす。
・ 引き渡し訓練を今後も継続する。（形を変えてでも、学校と保護者が一緒になって実施する）
・ 見守り隊の仕組みをさらに広げていく。
・ 「自分の身は自分で守る」ということは、学校でも家庭でも地域でも子どもに伝えるようにするといい。
・ 各戸に配付されている防災ファイルをよく理解すること
・ 子どものアンケート結果から、「大玉村は安全だから大丈夫」という意識が強いことが分かった。だが、現実としては「安達太良山の噴火の可能性」や「大きな地震の可能性」等があり、明日災害が起きるかも知れない。ハザードマップ等を授業に取り入れてみたい。去年の６年生は、安全・防災について学習していたので、それを継続できればいいと思っている。（→ 安全の対する意識を高められる）
・ 家庭で一緒に参加できるような（学校を離れた場所での）体験教室もあるので、情報発信をして

いきたい。（参観日等）
・ 前述のアナログ（防災ファイル）とデジタル（県防災アプリ）を併用し知識を深める。

7　班

身に付けさせたい力 ＝ 危険を予測する力

ア　学校からアプローチできること
・ 子どもの発達段階に応じ、疑似体験等を取り入れて実施する。
イ　家庭からアプローチできること
・ 一緒に話し合ったり、一緒に歩いて確認したりすること
・ いろいろ話題にすることが大事
ウ　地域からアプローチできること
・ 現状大玉村の地域の人たちは、子どもたちのことをよく見守ってくれている。情報発信をするとさらに効果的である。

（進　行）先生方、ＣＳ委員の皆さまありがとうございました。時間通りに進めていただき感謝申し上げます。

8　講　評　　（ おおたま学園ＣＳ委員会会長 ）

いつも申し上げておりますが、御礼でございます。

未来を担う子どもたちの安全・安心という視点で熱い熟議をしていただきありがとうございました。皆さんのお話を聞いていますと、定期的にこのようなテーマで話し合うことが大事だと思いました。皆さん一人一人が意識することが大事なのではないかと思います。

大人も車を運転しますが、ついついスピードが出がちになったり等、気をつけることがあるかと思います。私も、免許更新に行き講習を受けて帰る時には慎重な運転になるのですが、日が経つにつれてその気持ちが薄れがちになってしまうことがあります。意識しないとどうしても忘れてしまいがちです。こういった防災とか交通安全をテーマにした集まりに参加するのが久々でしたので、こういう機会を学校・家庭・地域でなるべく多くもつことが子どもたちを守る第一歩なのかなと思いました。皆さん、今日は本当にありがとうございました。

9　御礼のことば　　（ 玉井小校長・幼稚園長 ）

皆さん、本日は遅くまで熱い話し合いをしていただきありがとうございました。毎回ＣＳ委員会に参加しますと、学校と地域のつながりの強さ、それから多くの励ましの言葉をいただいて、本当に前向きな気持ちになります。

今日の熟議の様子を拝見し、その思いを一層強くしたところでございます。本当にありがとうございました。教育活動の全ての土台は、「子どもたちの安全・安心」、「子どもの命を守ること」でございます。本校教職員もそのことを第一に考え、日々教育活動を進めております。しかし、対応の難しさも感じておりました。

本日の熟議を通して、学校の安全教育を土台として保護者や地域の方々、関係機関の方々等多くの目で子ども見て、心を配り、具体的に働きかけていくことが重要であることを改めて実感するとともに、大玉村はそのような意識がしっかり根付いていることを心強く感じております。私は、安全指導にやり過ぎはないと思っております。しかし、その指導の方法には直接的な指導であったり、考えさせる指導であったりと、発達段階に応じて工夫していく必要があると思います。今日は、そのヒントをたくさんいただきました。本当にありがとうございました。

今後もチーム大玉で地域の宝である子どもたちの安全・安心をしっかりと確保すると共に、その上

で子どもたち一人一人が生き生きと活動に取り組めるよう、皆さまからいただきましたアドバイスやご助言を明日からの教育活動に生かし、実践していきたいと思います。今後とも玉井幼稚園、玉井小学校、そして、大玉村の子どもたちを温かく見守っていただけますようお願いいたします。本日はどうもありがとうございました。

１０　閉会のことば　　（ おおたま学園ＣＳ委員会副会長　浅和　博栄 ）

本日はオープンスクールということで、先生方大変お世話になりました。ありがとうございました。これにて、オープンスクール及び学校運営協議会を閉じさせていただきたいと思います。交通安全に留意され、安全第一でお帰りください。お疲れさまでした。